

和歌山県林業試験場の最新情報

「やまびこ通信」

第16号 令和5年3月 発行



■ この一年を振り返って（雑感）

令和4年度も残すところあと僅かとなりました。2月には上富田文化会館で1年ぶりに開催した成果発表会において、多くの方のご参加をいただきました。改めて御礼申し上げます。昨年度の成果発表会はコロナ対策によりWEB配信のみでしたが、本年度は対面式の成果発表会に加え、WEB配信も行う2刀流とさせていただきます。今後も様々な形の情報発信により、できるだけタイムリーに皆様へ必要な情報をお届けすべく努力していきますのでよろしくお願いいたします。

この1年を振り返ると林業関係においても様々な新しい動きがあったように思います。中でも特に感じたのは、森林・林業・木材に対する社会の認識が劇的に変わり始めたことです。カーボンニュートラル、SDGsなどが合言葉になり、国や民間企業がこぞって取り組み強化を打ち出すようになりました。それは多くの方のスーツの胸にあのバッジを見ることが増えた時期と重なります。そして木を伐り（植えて育て）使うことは良いことであり、木造建築は炭素固定につながり街に森林を創造するものであるとの言葉を聞くと、時代は大きく動いており林業への関心の高まりを感じます。と同時に本当にこの社会の期待に林業がどれだけ応えられるのか、これまでも幾度となく時代から期待されつつ山から木が出てこない・・・ことが繰り返されてきた苦い思い出が頭をかすめます。そしてこの期待に応えることが山の疲弊につながらないよう、安定需要に基づいた適正価格による安定供給が必要と感じます。研究機関としてどのパートでお手伝いできるか試行錯誤しながらも、粛々と研究業務を進めていければと考えています。

林業は他業種と比較し50年から100年というとても長い周期を必要とする特殊な産業です。それ故に目まぐるしく変化する時代の流れを注視しつつ、軸がぶれることのないよう、また先人の取り組みを否定することなく、新しい動きを取り入れていきたいものです。

まもなく新年度が始まります。今後とも当試験場の運営並びに試験研究実施にご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

（場長 大塚 康史）

■ 令和4年度成果発表会 発表内容

今年度は、コロナ禍でありましたが、令和5年2月15日に上富田文化会館において、参加者人数を制限したうえ令和4年度成果発表を開催しました。以下のとおり、5課題の「口頭発表」と各部毎に「ポスター発表」も行いました。

また、参加できなかった方にも見てもらうため「口頭発表」は、研究員の発表を動画に収録し、「YouTube」にて3月27日まで配信もしています。まだ視聴可能ですので、課題毎のURL・QRコードにアクセスをし、この機会に是非、ご視聴願います。

なお、ご質問等があれば、発表者へ直接、電話・メール等をお願いいたします。

〈口頭発表〉要約

○「スギ・ヒノキ人工林の針広混交林への誘導について」 (<https://youtu.be/oeIiTYdxH8A>)



経営環境部 研究員 大谷 美穂

人工林を針広混交林に誘導するためのモデル林として列状間伐、群状間伐が実施されたエリアにおいて、針広混交林成立の可能性を検証した。

各間伐エリアにシカ柵あり・柵なし区を設定し、植被率、林床被覆（落葉落枝）率の調査を行なった。柵内・柵外で植生の繁茂状況に明確な違いがあり、シカ柵により食害を防ぐことが有効であると確認された。



○「近年増加するスギ苗木等の被害について」

(https://youtu.be/5ZJ0_OvhXjc)



経営環境部 主任研究員 法眼 利幸

被害相談を受けた事例や、現地調査を実施した事例を報告し、注意喚起に繋げる。

コンテナ苗という新たな生産技術が導入されることによって、ウスアトキハマキによるスギ食害など、

これまで確認されていなかった被害がみられはじめています。一方、対策方法が確立したため近年見られなくなったスギ苗木の赤枯病などの被害が再びみられるようになっており、関係者の注意が必要となってきている。また、干害による植栽スギ苗木の被害もみられ、根に比べて地上部の大きな徒長した苗木の枯死が顕著であった。昔から良い苗木とされる“ズングリ”したものを植栽することで被害を回避できる可能性がある。



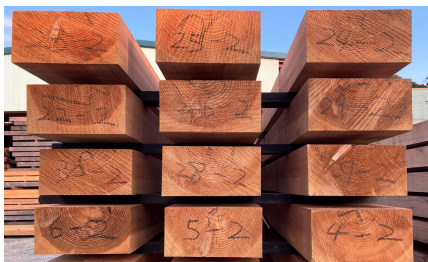
○「スギ大径材を活用した心去り平角材について」

(<https://youtu.be/4cizsi6PX2c>)



木材利用部 研究員 一岡 直道

県産スギ大径材の特性を生かした心去り平角材（原木の中心を外して製材した材）について、変形（反り）を抑えるための製材方法を検討するとともに強度特性の解明を試みた結果、製材方法による反りの低減や、強度特性に関するデータを得ることができた。



○「大径材から生産される製材ラミナの強度分布について」 (<https://youtu.be/EOPtg9Jc6Rc>)



木材利用部 主任研究員 山裾 伸浩

県産スギ、ヒノキ大径材の活用に向け、原木及びそこから生産されるラミナについて打撃



による動的ヤング係数を中心に評価を行った。その結果、日本農林規格の強度等級において、原木はスギでE70、ヒノキでE110、ラミナはスギでL70、ヒノキでL110を中心に分布していた。これらの成果は、県産大径材から集成材等の木質材料を製造する際の等級決定など、大径材の利用促進に資するデータとして活用できると考えられる。

○「イタドリの長期安定栽培および利活用に関する研究について」

(<https://youtu.be/TOumMtmReJI>)



特用林産部 主査研究員 杉本 小夜

イタドリは県内山間地域で広く食されている郷土山菜であり、近年栽培者が増えている。しかし、長年栽培を続けると、収量が減少する事例もみられるため、長く安定した収量を保つための収穫方法について検討を行った。その結果、通常の収穫期間の約2/3の期間（約2週間以内）で収穫を打ち切ることによって、比較的安定した収量が維持できると考えられた。



また、一次加工品（イタドリ水煮）では、カルシウム塩溶液への浸漬により、歯ごたえを残すことが可能となった。また根茎を粉碎後、エタノール溶液で抽出したエキスは医薬部外品原料規格に適合することを確認した。

〈ポスター発表〉

□頭発表以外にも研究成果をポスター等にして展示し、来場者からの質問等に答えました。



特に、現物資料の展示は好評で、スギ大径材の心去り材、接着重ね梁、クビアカツヤカミキリ、スギノアカネトラカミキリの標本、シカ骨格標本、クマノザクラ、サカキ新種ヨコバイ、ヒサカキの病害、アセビ出荷サンプル、イタドリの新商品、ブドウハゼ接ぎ木苗の結実状況など、見て・触れることで研究成果をより身近なものとして、感じて頂けたと思います。

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。